

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	4	名称	市民の自立と個性を活かすまち			
施策	番号	1	名称	生涯学習の充実			
主担当部	生涯学習部		主担当課	社会教育課		部長名	榎谷 仁志
関係部	魅力創造部		関係課	中央公民館、公民館、昆虫館、文化振興課(図書館)			

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	市民がいつでも、どこでも、学びたいことを学べ、学習の成果をまちづくりや地域課題の解決に活用し、生きがいのある生活を送ることができる生涯学習社会の実現を目指します。そのために、住民、ボランティア団体、大学等の教育機関、地域に根ざした民間企業等と連携しつつ、社会教育としての生涯学習講座や教室の内容の充実を図るとともに、市の生涯学習施設の利用促進を目指して、機能の改善やサービスの質の向上に努めます。
---------	--

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について
	子どもから高齢者まで幅広い年齢層の多様なニーズに応じた学習施設や講座、資料及び生涯学習に関連する情報の提供を充実させることが求められています。図書館は、疑問の解消や知的欲求の充足、地域の問題解決のための情報を収集し、提供する等「知の拠点」としての機能の充実が求められています。昆虫館やこども科学館などの生涯学習施設では、来訪者の満足度を向上させるための取組が求められています。	・まちづくりの課題解決等、多様なニーズに対応した学習機会の提供が求められており、また学んだ成果を社会に還元し、自己実現や社会参画にいかにつなげていくかが課題となっています。
これまでの成果	市の生涯学習施設や文化学習施設で、これまで様々な講座や教室の開催やそれらの情報提供を行っています。例えば図書館では、おはなし会や親子手作り絵本教室等の読書推進活動、昆虫館では、自然体験型事業の展開、中央公民館での各種生涯学習講座開催、子ども科学館での探求する心を養う科学イベント等の実施を通じて、求められている生涯学習機会・環境の提供が図れています。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標年度)	備考欄	
		実績	目標	実績	目標	目標		
指標の推移	施策指標① (成果指標)	生涯学習セミナーの参加率%	55.9	58.5	40	58.5	60	
	施策指標② (成果指標)	中央公民館の利用率	29.5	29.5	33.3	29.5	30	
	施策指標③ (成果指標)	有料生涯学習施設入館者数 (こども科学館・昆虫館)入館者数	111,262	114,500	114,451	116,000	117,000	
	施策指標④ (成果指標)	図書館蔵書予約件数	28,994	40,000	29,886	45,000	50,000	
	施策指標⑤ (成果指標)	図書館ページビュー数	579,360	358,000	616,986	382,000	405,000	
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算		
	歳出 (直接事業費)(a)		244,073	413,459	392,472	256,996		
	歳入 (b)	受益者負担額	40,437	35,293	38,236	37,822		
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)	3,813	5,005	4,568	3,535		
	(a) - (b) = 一般財源		199,823	373,161	349,668	215,639		
	正職員	従事者数 (単位:人)	23.25	24.55	23.10	23.45		
		人件費(c)	151,125	142,464	134,049	136,080		
トータルコスト (a) + (c)		395,198	555,923	526,521	393,076			

## 5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	1	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	図書館では図書の貸出しの他に、おはなし会を始め親子手作り絵本教室等を行い読書推進活動を実施している。昆虫館では、自然体験型事業を展開し、昆虫の生態や自然の大切さを学習する機会を提供している。中央公民館の利用率は上昇傾向であり、利用形態も時間帯区分へ変更したことにより利便性の向上も見込まれている。またこども科学館では、子どもの探求する心を養う各種科学イベント等を実施しており、生涯学習の様々な講座や教室を内容を工夫しながら実施しており、継続性という意味で成果はやや高いと考えている。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	市民がいつでも、どこでも、学びたいことを学ぶことができ、学習の成果を活かし、個々または地域の課題解決への取り組み、地域社会への参画を通じ、生きがいのある生活を送ることが出来る生涯学習社会の実現を図る上で、取り組んでいる事業の貢献度は高いと考えられる。				

## 6. 施策の課題

この施策の課題	地域の教育力を高めるために、学習活動を活発に行い、豊かな人生を送ることができるように様々な環境を整備することで、市民だれもが、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、生涯学習で得た知識や技術等を積極的に地域社会に生かせる仕組みづくりが必要である。また、社会や自然環境が変化の中で、子どもたちが自然や命の大切さを学ぶ・また探求する心を養うことのできる学習機会の提供も不可欠なものとなってきている。また今後は、生涯学習に対してあまり関心をもたれていなかった市民を、いかに生涯学習の場に引き出すか、またその中から指導者をいかに育成していくかが重要課題である。
---------	--

## 7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	2	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	いつでも、だれでも、どこでも学びたいときに学べる環境づくりの推進として、庁内の連携を図って市民にわかりやすい生涯学習情報の提供に努めるとともに、民間企業や大学との連携や指導者の育成等も視野に入れて取り組んでいく。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

## 8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	学習の充実を図るための各事務事業は、市民が生きがいのある豊かな生活を送るために必要であり、継続していくことが重要である。 今後は、生涯学習講座について、関係課が連携を取りながら、市民が参加・受講しやすくなるよう改善を図り、情報提供を行っていきます。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。  
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。  
(拡大する、見直ししながら続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。  
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価			
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH27決算額	貢献度	方向性	優先度(ソフト任意)	
1	文化振興課(文化・スポーツ課)	科学工作教室4回、共催教室(ファミリー電波教室、乾電池教室、宇宙の日作品展、宇宙の日講演会)、特別イベント(こどもの日、夏休み、関西文化の日)、出張工作(近鉄百貨店)以上のようなイベントを繰り返し行うことで集客をえる。	1	拡大する	a	拡大する	C
			2,989 (千円)				
2	文化振興課(文化・スポーツ課)	科学館の魅力を維持し、来館者増を図るため、常設展示の予防保全等を行いながら、維持管理する。	1	拡大する	a	拡大する	B
			26,715 (千円)				
3	文化振興課(文化・スポーツ課)	子ども達が宇宙や科学に憧れ、好奇心を抱かせるような演出方法を行った。(サイエンスフェスティバル)	1	拡大する	a	拡大する	B
			2,360 (千円)				
4	文化振興課(図書館)	○図書館ボランティアの募集と養成。ボランティアによる自主研修において、職員がサポートに当たる。 ○図書館ボランティアの募集を行い、図書館員との意思の疎通や技量の向上を図りながら協働する。 ○修理ボランティアによる図書館資料の修理 ○おはなしボランティアによるおはなし会への参加、乳幼児向け読書啓発イベントや対面朗読おはなし会への参加 ○ブックスタート事業での読み聞かせや絵本の案内	2	現状のまま継続	a	見直ししながら続ける	C
			110 (千円)				
5	文化振興課(図書館)	○橿原市図書館協議会の事務局事務 ○奈良県図書館協会公共図書館部会参加に伴う付帯事務 ○図書館システムの管理・運営(保守業務) システム更新 ○図書返却ポストの施設管理 ○嘱託職員・臨時職員の労務管理・任用 ○図書館資料の書誌データの作成 ○図書館資料の資料管理(配架・除籍など) ○館内備品や消耗品の管理	2	現状のまま継続	a	見直ししながら続ける	D
			19,969 (千円)				
6	文化振興課(図書館)	○図書館利用や読書推進に関わる行事を開催する。 ○各種の講座や教室の作品展 ○広報かしはら紙上での図書館担当コーナーや図書館だより、PTAや各団体の機関紙、図書館ホームページでの広報活動を行う。 ○図書館利用統計を集計・解析し図書館年報(年次事業報告)を発行する。	2	現状のまま継続	b	見直ししながら続ける	D
			78 (千円)				
7	文化振興課(図書館)	これまで既存の所蔵図書を手段として利用者の要望に応じてきたが、近年需要が増大している「地域医療」「子育て」「高齢福祉」「セカンドライフ」「地域参加」「エコロジー」「防災」などの今日的分野は、市民の注目度が高く、変遷の激しい分野でもある。社会情勢や制度改正等に即応した図書を一定数確保することが急務となっている。情勢に適應していない時代遅れの図書から新刊書に置き換えることで、市民の自立を可能とする基礎的環境の整備に努めたい。	1	拡大する	a	拡大する	A
			11,719 (千円)				
8	文化振興課(図書館)	館外利用である貸出、館内利用である閲覧、図書を活用した利用者の調査・研究への協力、あるいは読書案内などを行っている。市民限定だが、貸出中図書の予約や未所蔵図書を要望できるリクエストの受付、利用者の利便性を確保した著作権法内での複写サービス、レファレンスサービスの補完としてインターネット利用を供している。一方で、未所蔵図書への要望や高度に専門的なレファレンス要望にも応えるため、貴重図書や重要資料などを館どうしで相互に貸借する図書館協力にも参加している。利用困難者への対応として、郵送貸出や対面朗読サービスを行っている。	2	現状のまま継続	a	見直ししながら続ける	C
			14,249 (千円)				

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価		
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH27決算額	貢献度	方向性	優先度(ソフト任意)
9	文化振興課(図書館)	「榎原市子ども読書活動推進計画」に基づき、以下の事業を実施している。 ○おはなし会やあかちゃん絵本の読み聞かせ ○ブックスタート(健康増進課 子育て支援課 ボランティア) ○絵本・児童図書の特別展示や季節展示 ○図書リストの作成・配布 ○地域や関係課催事でのおはなし会・紙芝居 ○インターシップ・職場体験・図書館見学 ○市立学校・地域文庫・各種団体への団体貸出 ○団体貸出に伴う図書の輸送	2 現状のまま継続	b	見直しなが ら続ける	B
	読書推進啓発事業 (ソフト(任意))		2,423 (千円)			
10	社会教育課	多くの保護者が集まる機会(未就園児登園日、土・日の保護者会等)や育児サークルなどで、幼児期に一番大切な心身の発達を遊びなどの中から学んでもらう学習の場を保護者に提供する。また父親が参加しやすい休日を開催日とし、子どもと関わりやすい体育遊びや、1歳までの赤ちゃんとの触れ合いを通して父親に子育て参加を促す。同じ子育ての悩みを持つ参加者同士の交流ができる場の提供を行う。	2 現状のまま継続	b	見直しなが ら続ける	C
	家庭教育支援事業 (ソフト(任意))		1,986 (千円)			
11	社会教育課	「生活科学」、「美術・工芸」、「歴史・郷土」、「国際関係」、「文学」、「スポーツ・保健」、「政治・経済」、「福祉・ボランティア」の8つのコースがあり、定員は各コース30名。学習は同じコースを2ヶ年で、年8回(合計16回)受講してもらう。12回以上の出席者には卒業証書を、8回から11回の出席者には修了証書を授与する。	2 現状のまま継続	b	見直しなが ら続ける	C
	高齢者大学推進事業 (ソフト(任意))		14,035 (千円)			
12	社会教育課	社会教育委員会議、県・近畿・全国研究大会参加、先進地視察研修を開催し、日々教育委員会の諮問に応えるべく調査・研究を行い、教育委員会議への報告、並びに関係課に事業見直しの意見・助言を行っている。 行政は委員会議の開催運営の事務局として会議・研修の計画、実施、資料の収集、情報提供を行い市の生涯学習・社会教育の推進を行う。また、国・県・他市町村との連絡調整や庁内の連携を行う。	2 現状のまま継続	a	見直しなが ら続ける	C
	社会教育委員・社会教育指導員・社会教育主事 (ソフト(任意))		937 (千円)			
13	社会教育課	発達段階に応じた教室や講座を開催する。 一般成人対象・・・生涯学習セミナー、家庭教育学級 青少年対象・・・夏休みワクワク体験学習、かしはら探検隊 高齢者・・・生涯学習セミナー	2 現状のまま継続	b	見直しなが ら続ける	A
	社会教育推進事業 (ソフト(任意))		5,239 (千円)			
14	社会教育課	毎年1月の成人の日に、成人式祝賀式典を開催している。市内6中学校の代表者12名で実行委員会を立ち上げ、壇上で述べる「新成人誓いの言葉」を作成したり、式典の後のアトラクションを自主的に企画運営している。	2 現状のまま継続	b	見直しなが ら続ける	D
	成人式運営事業 (ソフト(任意))		2,580 (千円)			
15	社会教育課	市民が生涯のいつでも、どこでも、自ら学習できる環境や多様なニーズに応えた学習機会の提供を行う。また、学習によって習得した知識・経験を活かし、地域のコーディネータとして学校と地域を連携させ、教育支援活動を行う。	2 現状のまま継続	a	見直しなが ら続ける	A
	生涯学習推進事業 (ソフト(任意))		6,420 (千円)			
16	社会教育課	地域生涯学習推進委員を対象に生涯学習に関する講演会、交流会、先進地視察研修を開催し、委員の活動状況や地域の生涯学習への取り組みの情報交換や意見交換を行う。	2 現状のまま継続	a	見直しなが ら続ける	B
	地域生涯学習推進委員事業 (ソフト(任意))		600 (千円)			
17	中央公民館	公民館本館と分館には、講堂、会議室、研修室、和室、料理調理室等、住民のニーズに応える部屋があり、利用調整を図っている。周知は、広報「かしはら」やインターネット(e古都なら)で行っている。また、中央公民館・分館の適正な維持管理を行う。	2 現状のまま継続	a	見直しなが ら続ける	B
	公民館管理運営事業 (ソフト(任意))		44,575 (千円)			
18	中央公民館	市民の多彩な趣味・教養・学習ニーズに応えるべく、教養講座や生活文化講座を28教室開催した。公民館主催講座終了後もサークル結成や自主活動グループに入会して、趣味や学習を継続される方もおられ、生涯学習の機会を提供するきっかけをつくっている。	2 現状のまま継続	b	見直しなが ら続ける	A
	生涯学習の機会提供事業 (ソフト(任意))		3,995 (千円)			

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価		
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH27決算額	貢献度	方向性	優先度(ソフト任意)
19	中央公民館	現在11館ある地区公民館を平成18年4月から指定管理者制度を導入し、地区公民館の活性化と地域住民のニーズに応えられるよう、地元の11地区の自治委員会に管理運営を委託している。また、市ホームページに地区公民館の概要を掲載している。	2 現状のまま継続	b	見直しなが ら続ける	B
	地区公民館維持・管理運営事業 (ソフト(任意))		180,911 (千円)			
20	中央公民館	日本画、洋画、書道、写真、彫塑工芸の5部門で募集。6日間の会期中、万葉ホール3階展示ギャラリーに展示している。優秀作品については、各部門ごとに市展賞をはじめ8つの賞を設け表彰式を行う。	2 現状のまま継続	b	見直しなが ら続ける	D
	美術展覧会開催事業 (ソフト(任意))		2,503 (千円)			
21	昆虫館	効率的で安定した運営を行うため、受付及び清掃業務は一体として非常勤職員にて行い、各種のメンテナンスは専門を有する業者に委託することにより適切かつ安全に実施する。入館者増の取り組みとして、昆虫や野生生物等に関係する特別展、企画展等のイベントなどを積極的に市のホームページや広報誌、昆虫館機関紙等に情報を発信する。	2 現状のまま継続	b	見直しなが ら続ける	
	昆虫館管理事業 (内部管理・維持管理)		48,079 (千円)			



事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年5月29日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

PLAN  
計画

事務事業名	こども科学館自主事業						
担当部名	魅力創造部	担当課名	文化振興課(文化・スポーツ課)	課長名	西村 明		
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち				
	施策	1	生涯学習の充実				
予算事業名	こども科学館管理運営費						
事業の開始年度	平成	8	年度	事業の終了予定年度	平成		年度
対象	こども科学館入館者			事業の内容説明	科学工作教室4回、共催教室(ファミリー電波教室、乾電池教室、宇宙の日作品展、宇宙の日講演会)、特別イベント(こどもの日、夏休み、関西文化の日)、出張工作(近鉄百貨店)以上のようなイベントを繰り返し行うことで集客をえる。		
事業の目的	青少年健全育成のための拠点のひとつとして将来を担うこども達に「科学技術」や「ものづくり」に関する体験活動の機会を提供する。						
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業				
		2	2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)				
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明	かしはら万葉ホール条例及び橿原市立こども科学館の管理運営に関する規則に基づき市が関与すべき事業である。				
		1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い	
		説明	楽しみながら科学に触れる機会がなくなり、生涯学習の場を失うことになる。				

DO  
実施

指標の推移	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度(総計目標)
		実績	計画	実績	見込み	見込み
成果指標	工作教室申込率(申込者/募集人数×100)	145	120	122	120	120
活動指標①	キャンペーン参加者数	4,599	5,000	3,843	5,000	5,000
活動指標②						
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出(直接事業費)(a)		2,972	3,089	2,989	3,081
	歳入(b)	受益者負担額	65	60	41	60
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)				
	(a) - (b) = 一般財源		2,907	3,029	2,948	3,021
	正職員	従事者数(単位:人)	1.25	1.25	0.70	0.70
		人件費(c)	8,125	7,254	4,062	4,062
	トータルコスト(a)+(c)		11,097	10,343	7,051	7,143
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )					
備考(これまでの実績等)						

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	工作教室のメニューにより、参加率の変動があるものの参加者の評判がよい。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	県下で唯一の科学館として、科学の普及・啓蒙する機会を提供する重要な役割を果たしている。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	限られた予算の中、手作りイベントを行うなど創意工夫をこらした手法でコスト削減に努めており、これ以上の削減余地は考えにくい。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		工作教室の参加率向上のため、参加しやすい時期を設定し実施したことで、参加率があがっている。ミニ工作は毎月メニューを替えて実施することでものづくりの楽しさを体験していただいている。各種イベントについても人気のあるイベントは集客率が高いが低いイベントもあるため、これからも創意工夫を凝らし更なる参加者、来館者を増やしていく。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度	C	
説明		今後も貴重な予算を有効に活用することで実り多いイベントとなるよう工夫し、子ども達に楽しんでいただける場を提供していく。								

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年5月29日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

PLAN  
計画

事務事業名	こども科学館常設入館事業						
担当部名	魅力創造部	担当課名	文化振興課(文化・スポーツ課)	課長名	西村 明		
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち				
	施策	1	生涯学習の充実				
予算事業名	こども科学館管理運営費						
事業の開始年度	平成	8	年度	事業の終了予定年度	平成		年度
対象	こども科学館入館者						
事業の目的	生涯学習施設として、来館者が科学の原理や原則を楽しく体験しながら学ぶことができるようにし、生涯学習を推進することを目的とする。			事業の内容説明	科学館の魅力を維持し、来館者増を図るため、常設展示の予防保全等を行いながら、維持管理する。		
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業				
		2	2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)				
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明	科学館は理科教育の体験型生涯学習施設であり、公共性や収益性の観点から市の関与が必要とされる。				
		1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い	
		説明	理科離れが取りざたされている時勢に県下で唯一の公立科学館として、科学の楽しさを伝える施設を廃止することは理科教育の衰退につながる。				

DO  
実施

指標の推移	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
		実績	計画	実績	見込み	見込み
成果指標	入館者数	41,430	41,500	45,775	42,000	42,000
活動指標①						
活動指標②						
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出(直接事業費)(a)		25,791	27,146	26,715	27,839
	歳入(b)	受益者負担額	7,744	7,000	8,104	8,085
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)				
	(a) - (b) = 一般財源		18,047	20,146	18,611	19,754
	正職員	従事者数(単位:人)	1.15	1.15	1.10	1.10
		人件費(c)	7,475	6,673	6,383	6,383
	トータルコスト(a)+(c)		33,266	33,819	33,098	34,222
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )					
備考 (これまでの実績等)						



CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	通常増え続ける故障を、効果的な予防保全により少なくし、来館者の満足度向上に努めている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	科学館及びその展示物は科学振興のために必要であり、生涯学習の充実に貢献している。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	維持管理に要する費用は年々増加する傾向にあり、的確な予防保全をすることにより増加する費用を抑えられる可能性はあるものの、低減余地はあまり考えられない。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		平成14年にリニューアルを行い、平成21年に展示物1台の入れ替えを実施したが、利用者に魅力ある展示物を提供するためには、大規模なリニューアルが必要である。より高度な展示物を備えることで科学への意識高揚につながる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	展示物を入れ替えることにより、次世代を担う子どもたちを始めとする来館者が、科学の原理や原則について楽しく体験しながら学ぶことができるようにし、生涯学習体制を充実していく。					

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年5月29日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	大型科学イベント								
	担当部名	魅力創造部		担当課名	文化振興課(文化・スポーツ課)	課長名	西村 明			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち						
		施策	1	生涯学習の充実						
	予算事業名	こども科学館管理運営費								
	事業の開始年度	平成	8	年度	事業の終了予定年度	平成		年度		
	対象	市民								
	事業の目的	科学を通じて、こども達に探求する心を養っていただくため、科学に身近に触れてもらうためのイベントを行うことを目的とする。			事業の内容説明	こども達が宇宙や科学に憧れ、好奇心を抱かせるような演出方法を行った。(サイエンスフェスティバル)				
	市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)						
			説明	科学及び科学技術に関する講演会、講習会、映写会及び研修会を開催することが規則にある。						
やめた場合の影響は		2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
		説明	こども達が科学イベントを通じ、手軽に身近なものとして触れる機会が減少する。							
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			26年度	27年度		28年度	29年度(総計目標)	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	講演会販売席数(入場者数)			843	600	552	600	600	
	活動指標①	公演入場者率(販売席数/定員数)			100	70	65	70	70	
	活動指標②	イベント入場者数			7,716	5,000	7,327	5,000	5,000	
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)			2,305	2,351	2,360	2,351		
		歳入(b)	受益者負担額			846	252	414	252	
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)							
		(a) - (b) = 一般財源			1,459	2,099	1,946	2,099		
正職員		従事者数(単位:人)			0.70	1.00	0.95	1.00		
		人件費(c)			4,550	5,803	5,513	5,803		
トータルコスト(a)+(c)			6,855	8,154	7,873	8,154				
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )									
備考(これまでの実績等)										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	奈良高専や畿央大学、リコーなどの協力を得て、様々な体験ブースを提供できた。来場者も年々増加し、「親子で楽しみながら学ぶ」イベントとして成果が伺える。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	イベントを通じ、楽しみながら科学や宇宙に触れることができ、学習の場を提供することができた。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	限られた予算の中、手作りイベントを行うなど創意工夫をこらした手法でコスト削減に努めており、これ以上の削減余地は考えにくい。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		子ども達が興味をもち、話題性のある人物や講演内容であれば集客率を上げることも可能であるが、コスト的に高価になる。予算の範囲内で検討を加え実施する。また、毎年新たな手作りイベントを開催し、市内保育園、幼稚園、小学校などに広報することで、より多くの集客が見込める。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B
説明		今後も貴重な予算を有効に活用することで実り多いイベントとなるよう工夫し、子ども達に楽しんでいただける場を提供していく。								

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年 5月 31日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	図書館ボランティア養成事業						
	担当部名	魅力創造部	担当課名	文化振興課(図書館)	課長名	西村 明		
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち				
		施策	1	生涯学習の充実				
	予算事業名	図書館管理運営費						
	事業の開始年度	平成	8	年度	事業の終了予定年度	平成 年度		
	対象	市民(ボランティア ボランティア活動希望者)		事業の 内容説明	○図書館ボランティアの募集と養成。ボランティアによる自主研修において、職員がサポートに当たる。 ○図書館ボランティアの募集を行い、図書館員との意思の疎通や技量の向上を図りながら協働する。 ○修理ボランティアによる図書館資料の修理 ○おはなしボランティアによるおはなし会への参加、乳幼児向け読書啓発イベントや対面朗読おはなし会への参加 ○ブックスタート事業での読み聞かせや絵本の案内			
	事業の 目的	読書活動の重要性について市民の認識を広めてゆくことを目的に、図書館としての役割を果たしていく。子どもの読書活動を推し進めるためには、本と子どもをつなぐ「おとな」の介在が必要であるため、市民のボランティア活動を広げるための支援をしていく。						
	市の関与の 必要性を 評価してく ださい	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)				
			説明	「生涯学習の実践の場」として活動していただき、市民協働の観点からもボランティアの受け入れを推進している。絵本の読み聞かせは、「檀原市子ども読書推進計画」に基づいて、地域や家庭での子どもの読書活動を支援し、読書機会を創出するために実施している。				
やめた 場合の 影響は		2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い		
説明	ボランティア各位の意欲は高く、図書修理は作業を全任している状況である。また、読み聞かせボランティアについては、おはなし会や乳幼児向け読み聞かせ、ブックスタート等図書館のイベント的な行事、地域や家庭の読書活動の推進役として大きな役割を果たしており、事業中止の影響は大きい。							
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		26年度	27年度	28年度	29年度 (総計目標)	
				実績	計画	実績	見込み	
	成果指標	ボランティア活動人数		395	400	379	400	
	活動指標①	図書館が主導する研修回数		1	4	1	1	
	活動指標②	ボランティアの自主研修回数		11	8	11	11	
	コストの 推移  (単位: 千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出(直接事業費)(a)		121	161	110	161	
		歳入 (b)	受益者負担額					
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)					
		(a) - (b) = 一般財源		121	161	110	161	
正職員		従事者数(単位:人)		0.85	0.85	0.85	1.50	
		人件費(c)		5,525	4,933	4,933	8,705	
トータルコスト(a)+(c)		5,646	5,094	5,043	8,866			
単位当 りコスト	計算式等 ( )/( )							
備考 (これまでの 実績等)	ボランティアが自主的な研修を積極的に開催し、技術の向上に努めている。							

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	「修理班」「おはなし班」「ブックスタート班」と3つの班に分かれ、個々のボランティアが空いている時間に自分の資質に合った班に参画して活動している。(班の複数かけもち可)							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	おはなし会やブックスタート等の事業の中でボランティアと地元地域住民との間に交流が生まれることにより、図書館や市政が受けるイメージ上のメリットや貢献は大きい。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	必要コストは修理用消耗品やボランティア保険料のみであり、削減は不可能である。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		図書館関係者や図書館ボランティアが市域の中で活動を重ねていくことで、市民自身が「伝達者」「普及者」の役割を担うことになる。図書館が一方向的に「伝達」「普及」に努めるだけでなく、市民の中に理解者や賛同者、協働者を見出すことで手段が複合化され強化される。その結果、効果も相乗的に大きくなっていくものと期待している。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		C
説明		図書館事業に限らず、ボランティアとの連携は今後も有望な分野と捉えている。市民の「生涯学習の実践の場」としての貴重な機会を提供するためにも、事業継続を図っていく。								



事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年 5月 31日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	図書館管理運営事業							
	担当部名	魅力創造部	担当課名	文化振興課(図書館)	課長名	西村 明			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち					
		施策	1	生涯学習の充実					
	予算事業名	図書館管理運営費							
	事業の開始年度	平成	8	年度	事業の終了予定年度	平成 年度			
	対象	図書館職員・図書館施設		事業の内容説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>○檀原市図書館協議会の事務局事務</li> <li>○奈良県図書館協会公共図書館部会参加に伴う付帯事務</li> <li>○図書館システムの管理・運営(保守業務) システム更新</li> <li>○図書返却ポストの施設管理</li> <li>○嘱託職員・臨時職員の労務管理・任用</li> <li>○図書館資料の書誌データの作成</li> <li>○図書館資料の資料管理(配架・除籍など)</li> <li>○館内備品や消耗品の管理</li> </ul>				
	事業の目的	市民の生涯学習の拠点となる施設として、公立図書館として求められる諸条件を健全に維持するため、人員及び施設の管理を行う。							
	市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業					
			2	市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)					
説明		教育基本法と併せて、図書館法により特別法上の規定がなされている。公共の福祉の観点から、施設設置者であると同時に施設管理者である市には積極的な関与が求められる。							
やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
	説明	図書資料の配架や書誌データの保守管理を十全に行うためには、司書資格を有する専門的職員の関与が欠かせない。事業の中止は公立図書館の役割や機能を著しく損ねる。							
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		26年度	27年度		28年度	29年度(総計目標)	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	蔵書数		302,681	300,000	302,758	300,000	300,000	
	活動指標①								
	活動指標②								
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出(直接事業費)(a)			20,633	20,858	19,969	21,125	
		歳入(b)	受益者負担額						
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)						
		(a) - (b) = 一般財源			20,633	20,858	19,969	21,125	
正職員		従事者数(単位:人)		3.40	3.45	2.75	1.75		
		人件費(c)		22,100	20,020	15,958	10,155		
トータルコスト(a)+(c)			42,733	40,878	35,927	31,280			
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )								
備考(これまでの実績等)	図書館返却ポストの回収委託業務について一部、1日2回、回収していた所を1日1回に改め、コストの削減を行った。								

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	図書館システムの更新や、県内トップ規模である返却ポストの維持など、内部系・維持系の管理業務について、適切な維持管理の水準を維持している。25年度に行った図書館システムの更新でセキュリティを強化したことにより安定したサービスを提供している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	今日の図書館では、図書の管理と併せて、データの健全な管理が欠かせない。叢書の検索など図書館運営の主要部分は書誌データの精度に負い、保守管理等の内部管理が果たしている役割は非常に大きい。住民参加の観点から、図書館協議会の活性化にも取り組んでいく。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	「図書館管理運営事業」については維持管理に関する事業であり、コストの軽減は即サービスの低下につながるため、経費のコスト軽減は困難である。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		図書館システムの更新により、インターネットサービスの拡充と、資料の館外流出防止のためICタグを活用した管理を継続して実施する。今後、スマートフォンに対応したシステムへの更新や近隣他館で実施され始めているITサービスを要望する声に対応するため、図書館システムの更新に向けた取組を継続して行うことで、利用者の近隣他館への流出を防止し、利用拡大につなげられると期待している。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		D
説明		市民は常に地元の図書館と他市町村図書館の「サービスの内容と質」を比較評価している。近隣の情勢の変化に的確に適応しながら、市民ニーズに対応していくことを目指す。								

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年 5月 31日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

PLAN  
計画

事務事業名	図書館広報事業					
担当部名	魅力創造部		担当課名	文化振興課(図書館)	課長名	西村 明
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち			
	施策	1	生涯学習の充実			
予算事業名	図書館管理運営費					
事業の開始年度	平成	8	年度	事業の終了予定年度	平成	年度
対象	図書館利用者(市民)			事業の内容説明	○図書館利用や読書推進に関わる行事を開催する。 ○各種の講座や教室の作品展示 ○広報かしはら紙上での図書館担当コーナーや図書館だより、PTAや各団体の機関紙、図書館ホームページでの広報活動を行う。 ○図書館利用統計を集計・解析し図書館年報(年次事業報告)を発行する。	
事業の目的	図書館で読書関連の催事を行うことで図書館への関心を高め、図書館を利用してもらう機会を増やし、読書活動を推進する。広報媒体を活用した読書案内やイベント告知を実施する。					
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業			
		2	2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)			
	説明	市の施設が利用促進対策として広報活動や行事開催を実施することから、市の関与が必要。図書館の他事業も市の関与を前提としており、図書館サービスの一体性や整合性を保つ上から必要。				
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い
		説明	他の事業展開とも深い関わりのある利用者への情報提供や図書館サービスの利用促進が中止の場合、重大な影響を及ぼす。			

DO  
実施

指標の推移	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
		実績	計画	実績	見込み	見込み
成果指標	貸出利用者数	134,562	150,000	133,105	150,000	150,000
活動指標①	催事参加者数	233	250	238	250	250
活動指標②	催事開催数	3	3	3	3	3
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出(直接事業費)(a)		94	110	78	110
	歳入(b)	受益者負担額				
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)				
	(a) - (b) = 一般財源		94	110	78	110
	正職員	従事者数(単位:人)	2.00	2.10	1.80	1.70
		人件費(c)	13,000	12,186	10,445	9,865
	トータルコスト(a)+(c)		13,094	12,296	10,523	9,975
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )					
備考 (これまでの実績等)	27年度は春に一日に集中して開催していた「子ども読書の日」関連行事を各団体ごとに分けて実施し、同じ利用者が違うイベントに参加できる機会を増やした					

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	関連団体間と協働で行うイベントについて、充実してきている。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	「図書館広報事業」は「読書活動推進事業」とともに、図書館サービスの根幹事業である「図書館資料収集事業」と「利用サービス・情報提供事業」の補完事業として位置付けしている。						
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない		
		説明	図書館主催のイベントについては概ね定員を満たしているが、市内に住所を有する方を対象にせず広く参加者を募集することにより、さらに安定した運営と幅広い広報が期待できる。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		図書資料、図書館の設備、図書館システム等を基幹とした「図書館資料収集事業」「利用サービス・情報提供事業」には【手段】としての予算資源を集中させる。併せて、人的資源の活用を基幹とする「読書活動推進事業」「図書館広報事業」においては、支出を抑制しながら図書館職員の活用や読書関連団体の人材を登用して、運用面の効果を目指している。予算による環境整備と、人材運用による図書館サービスの一体的な向上が期待できる。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		D
説明		従来から、支出に頼らない事業実務を図ってきた。新しい広報手法としてホームページの開拓も行っているが、初めてイベントに参加する利用者向けに内容を充実させていく。							

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年 5月 31日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	図書館資料収集事業						
	担当部名	魅力創造部		担当課名	文化振興課(図書館)	課長名	西村 明	
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち				
		施策	1	生涯学習の充実				
	予算事業名	図書館管理運営費						
	事業の開始年度	平成	8	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	
	対象	市民 特に「働き盛りの壮年層」や「子育て世代」「中高年層」			事業の内容 説明	これまで既存の所蔵図書を手段として利用者の要望に応じてきたが、近年需要が増大している「地域医療」「子育て」「高齢福祉」「セカンドライフ」「地域参加」「エコロジー」「防災」などの今日の分野は、市民の注目度が高く、変遷の激しい分野でもある。社会情勢や制度改正等に即応した図書を一定数確保することが急務となっている。情勢に適應していない時代遅れの図書から新刊書に置き換えることで、市民の自立を可能とする基礎的環境の整備に努めたい。		
	事業の目的	子育て世代や壮年層、今後比率の増大が見込まれる中高年層の多種多様な資料需要に応えるため、的確な図書更新を実施することで、今日的な課題を市民自身が自己解決できる基礎的環境を整える。						
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業				
			2	市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)				
説明		教育基本法と併せて、生涯学習の社会的環境を整備するものとして図書館法により特別法上の規定がなされている。施設設置者と施設管理者がともに市である点で、高い公共性が求められる。						
市の関与の 必要性を 評価してく ださい	やめた 場合の 影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い		
		説明	社会科学系、医療福祉、テクノロジーといった分野について、必要最小限の除籍と新刊書への更新は不可避である。新鮮度に欠ける蔵書構成は利用需要に対応できない要因となり、利用者が隣接の図書館へ流出してしまう懸念が非常に大きい。					
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
				実績	計画	実績	見込み	見込み
	成果指標	市民1人当たりの貸出冊数		3.64	4.50	3.63	4.50	4.50
	活動指標①	1日当たりの貸出人数		473	533	464	533	533
	活動指標②							
	コストの 推移  (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算
		歳出(直接事業費)(a)			10,524	11,721	11,719	16,013
		歳入 (b)	受益者負担額					
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)					
		(a) - (b) = 一般財源			10,524	11,721	11,719	16,013
正職員		従事者数(単位:人)		1.50	1.60	1.60	2.65	
		人件費(c)		9,750	9,285	9,285	15,378	
トータルコスト(a)+(c)			20,274	21,006	21,004	31,391		
単位当 りコスト	計算式等 ( )/( )							
備考 (これまでの 実績等)	27年度は26年度に引き続き3類の社会科学系の図書の更新を進めた結果、市民1人当たりの貸出冊数の減少に歯止めがかかった。							



CHECK	有効性評価	現時点での成果について	3	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	数年来2～4%ペースで降下を続けてきた年間総貸出冊数について、27年度は前年ペースで0.83%の縮減に留まった。社会科学系図書の更新強化やシーリングカットが3%から1%に緩和されたこと等の成果の前兆と捉えている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	市民の自主的な学習が大きな比重を占める生涯学習にとって、公立図書館の図書は基盤的な役割を担っている。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	平成26年7月から実施している図書の入札を今後も継続し、図書の効率的な収集に努める。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		多数の貸出や閲覧に供される図書館資料は、耐用年数を経ると消耗してしまうことから予算上は消耗品扱いだが、図書館運営の点からは、サービス提供に不可欠な事業的経費である。政策的処方により高需要分野の「子育て」「福祉」「地域参加」「エコロジー」などの図書更新に充てることで、成人利用者層の利用促進と実績の上乗せに努めたい。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		A
説明		公立図書館として必要最小限の図書更新に努めることは最低限の役割と捉えている。また従来、予算費目上で分けていた消耗品図書と備品図書を一本化することで、より柔軟的な蔵書構成に努める。								

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年 5月 31日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	図書館利用サービス・情報提供事業						
	担当部名	魅力創造部	担当課名	文化振興課(図書館)	課長名	西村 明		
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち				
		施策	1	生涯学習の充実				
	予算事業名	図書館管理運営費						
	事業の開始年度	平成	8	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	
	対象	図書館利用者(市民)		事業の内容 説明	館外利用である貸出、館内利用である閲覧、図書を活用した利用者の調査・研究への協力、あるいは読書案内などを行っている。市民限定だが、貸出中図書の予約や未所蔵図書を要望できるリクエストの受付、利用者の利便性を確保した著作権法内での複写サービス、レファレンスサービスの補完策としてインターネット利用を供している。一方で、未所蔵図書への要望や高度に専門的なレファレンス要望にも応えるため、貴重図書や重要資料などを館どうしで相互に貸借する図書館協力にも参加している。利用困難者への対応として、郵送貸出や対面朗読サービスを行っている。			
	事業の目的	所蔵資料を利用者の求めに応じた用途に供している。様々な用途や目的のために来館する利用者のために適切に役立てられるよう、貸出サービスや閲覧サービス、調査・研究への協力(レファレンス)の他にも、各種のサービスを事業化している。図書館システムやICタグを活用した自動貸出、ウェブ上での予約・検索などのサービスも提供する。						
	市の関与の 必要性を 評価してく ださい	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)				
			説明	教育基本法と併せて、図書館法により特別法上の規定がなされている。公共の福祉の見地から、施設設置者であると同時に施設管理者である市には、積極的な関与が求められる。				
やめた 場合の 影響は		1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い		
説明	「利用サービス・情報提供事業」は「図書館資料収集事業」と並ぶ図書館サービス上の根幹事業であり、両事業の欠落は公立図書館の役割や機能を著しく損なう。							
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
				実績	計画	実績	見込み	見込み
	成果指標	市民1人当たりの貸出冊数		3.64	4.50	3.63	4.50	4.50
	活動指標①	予約受付件数		28,994	40,000	29,886	45,000	50,000
	活動指標②	図書館システムへのページビュー数		579,360	358,000	616,986	382,000	405,000
	コストの 推移  (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算
		歳出(直接事業費)(a)			15,146	14,201	14,249	14,227
		歳入 (b)	受益者負担額		146	225	131	189
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)					
		(a) - (b) = 一般財源			15,000	13,976	14,118	14,038
正職員		従事者数(単位:人)		1.50	1.85	1.85	2.25	
		人件費(c)		9,750	10,736	10,736	13,057	
トータルコスト(a)+(c)			24,896	24,937	24,985	27,284		
単位当 りコスト	計算式等 ( )/( )							
備考 (これまでの 実績等)	平成26年度に減少した予約受付件数が微増しているが、目標値には以前達していない。							

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要				
		説明	ウェブ上での予約や検索については一定の成果が見られる。								
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い				
		説明	図書館サービスの根幹をなす事業であることから、上位施策への貢献度は極めて高い。市民自身が個性を發揮して、自立を果たしていくためには、活用できる外部環境の整備が必要であり、生涯学習における図書館事業の役割は大きい。								
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない				
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	レファレンス業務を2階カウンターに集中することにより、時間をかけた専門的なレファレンスを行うことが可能である。そのためにはレファレンスに精通した職員を養成することが必要である。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		利用者に対して図書館ネットワークを駆使した紙ベースの資料提供に加えて、インターネット上で有料のものを含むデータベースを利用したサービスを利用者に提供することにより、市民の調査要求に応えることができる。								
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	C	
説明		「利用サービス・情報提供事業」については費用的に拡大が見込めないため、他事業と連携を図りながらインターネット上のデータベースについて今後も調査を継続していく。									

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年 5月 31日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

PLAN  
計画

事務事業名	読書推進啓発事業				
担当部名	魅力創造部	担当課名	文化振興課(図書館)	課長名	西村 明
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち		
	施策	1	生涯学習の充実		
予算事業名	図書館管理運営費				
事業の開始年度	平成	8	年度	事業の終了予定年度	平成
対象	図書館利用者(市民) 特に乳幼児や児童			事業の内容説明	「檀原市子ども読書活動推進計画」に基づき、以下の事業を実施している。 ○おはなし会やあかちゃん絵本の読み聞かせ ○ブックスタート(健康増進課 子育て支援課 ボランティア) ○絵本・児童図書の特集展示や季節展示 ○図書リストの作成・配布 ○地域や関係課催事でのおはなし会・紙芝居 ○インターンシップ・職場体験・図書館見学 ○市立学校・地域文庫・各種団体への団体貸出 ○団体貸出に伴う図書の輸送
事業の目的	閲覧、貸出、レファレンスといった伝統的な図書館サービスを基礎として、市民各層に、読書活動を推し進めるための方策を提供している。特に、単独で読書や図書に出会うことが難しい乳幼児や「子ども」に対して、本の紹介役を担う「おとな」(成人関係者)と図書館が連携することで、読書を介した健康で文化的な若年世代の心豊かな育成を目指している。				
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業		
		2	2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)		
市の関与の必要性を評価してください	説明	平成13年の「読書活動推進に関する法律」制定を受けて、15年には「奈良県基本計画」が策定された。また17年には「文字活字文化振興法」が制定されるなど関連法令等が整備され、県内市町村は順次推進に着手している。当市においても前述の「推進計画」を策定して、具体的な事業実施を行っている。			
	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内
説明	学校、幼稚園、保育所、地域文庫関連団体、おはなし会、読書関連ボランティア団体、市関係部局間の調整事務を図書館が担っており、法整備(第3次)や奈良県計画(第2次)、県内情勢の観点から事業の中止は実情にそぐわない。				

DO  
実施

指標の推移	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
		実績	計画	実績	見込み	見込み
成果指標	児童書の貸出冊数	192,506	200,000	196,273	200,000	200,000
活動指標①	おはなし会開催数	78	100	80	100	100
活動指標②	ブックスタート参加者数	985	1,000	1,000	1,000	1,000
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出(直接事業費)(a)		2,389	2,144	2,423	2,354
	歳入(b)	受益者負担額				
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)				
	(a) - (b) = 一般財源		2,389	2,144	2,423	2,354
	正職員	従事者数(単位:人)	2.75	3.15	3.15	2.45
		人件費(c)	17,875	18,279	18,279	14,217
	トータルコスト(a)+(c)		20,264	20,423	20,702	16,571
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )					
備考 (これまでの実績等)	「檀原市子ども読書活動推進計画」に則り事業を展開している。					

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	1歳半健診のブックスタートに始まり、1～3歳の赤ちゃん絵本の読み聞かせ、4歳～おはなし会といった図書館と乳幼児との段階的な係わりを持たせることで読書への興味を継続して持ってもらうことに効果が見られる。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	市民参加が可能な分野で、ボランティアや関連団体との協働を推し進めてきた。民間関係者の中には、図書館担当者にはない豊かな経験を有している人材も含まれており、そうした人的資源が果たしている貢献は小さくない。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください			説明	学校図書館の整備は教育総務課等、ブックスタート事業は健康増進課に予算措置をお願いしている状況である。また、無償ボランティアの参画で成立している事業も多く、従来から予算措置を伴わない方策で対応しており、削減の余地はない。					
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		地元の図書館としての信用力や対応力を発揮できる事業分野であると捉えている。図書館の取組の中でも、「事業」としての意味合いが強い。子どもたちの健全な育成に関心を寄せる大人は多く、住民参加意識の高まりから、ボランティア活動や官民協働に意欲的な市民も多い。そうした有意の市民団体やボランティアが取組に参加できるよう門戸を広めることにより、人的経費の節減と民間側に存在する優れたノウハウや技量を取り込むことで読書の啓発を果たしていきたい。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	B
4 廃止又は休止する				5 完了する						
		説明	関係者としての人的資源を適材適所に登用することにより、新たな予算確保に拠らない事業のゆるやかな拡大を目指す。							



事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

PLAN  
計画

事務事業名	家庭教育支援事業					
担当部名	生涯学習部	担当課名	社会教育課	課長名	黒岩 友治	
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち			
	施策	1	生涯学習の充実			
予算事業名	社会教育推進事業					
事業の開始年度	平成	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	
対象	幼児の親子		事業の内容説明	多くの保護者が集まる機会(未就園児登園日、土・日の保護者会等)や育児サークルなどで、幼児期に一番大切な心身の発達を遊びなどの中から学んでもらう学習の場を保護者に提供する。また父親が参加しやすい休日を開催日とし、子どもと関わりやすい体育遊びや、1歳までの赤ちゃんとの触れ合いを通して父親に子育てで参加を促す。同じ子育ての悩みを持つ参加者同士の交流ができる場の提供を行う。		
事業の目的	家庭教育の充実と、家庭の子育て力を高めるため、ライフステージに応じた学習機会の提供や、育児相談・子育てサークルの支援等を行う。また、父親の子育てへの参加促進を目的とする。					
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)			
		説明	今日の少子化の進行や家庭・地域を取り巻く環境の変化により、子どもが健やかに成長することができる社会の実現が社会的要求となっており、市町村の責務として子どもの健やかな成長のために適切な環境が等しく確保されるよう、子どもやその保護者に子育て支援事業を総合的かつ計画的に行う必要がある。			
	市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内
		説明	幼児と保護者が触れ合って遊びながら心身を鍛える場が無くなる。また、親同士の交流や子育て相談をし、不安を解消する機会が失われる。			

DO  
実施

指標の推移	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
		実績	計画	実績	見込み	見込み
成果指標	講座参加率 参加数/定数	92	100	112	100	100
活動指標①	参加者数	4,697	4,000	4,662	4,000	4,000
活動指標②	講座数	71	60	70	60	60
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出(直接事業費)(a)		1,995	2,108	1,986	2,108
	歳入(b)	受益者負担額				
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)				
	(a) - (b) = 一般財源		1,995	2,108	1,986	2,108
	正職員	従事者数(単位:人)	0.30	0.30	0.30	0.30
		人件費(c)	1,950	1,741	1,741	1,741
	トータルコスト(a)+(c)		3,945	3,849	3,727	3,849
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )					
備考 (これまでの実績等)						

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	講座への参加者は多く、特に父親の参加が増えていることから、事業目的の達成度は向上している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	子育てに対する不安を抱く親に対し、遊びを通して子どもとの関わりを持つ講座であるため参加者も多い。また、リラックスして参加者同士の交流の場を持てることにより、子育ての悩みを解決することにも繋がるため、家庭の子育て力も高まり成果が向上している。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	毎回参加者が多いため、指導と安全確保に複数の人員が必要であり、委託料の殆どが人件費のため削減は困難である。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		これまで各講座において、参加者へのアンケート調査や講座修了後の参加者同士の自発的な繋がり継続を促してきたが、こうした取り組みを継続することにより、参加者のニーズを掘り下げるとともに、同じ家庭教育上の悩みを持つ参加者の仲間づくりの広がりが期待できる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度	C	
説明		現代の家庭の教育力の低下と少子化の歯止め、父親の子育てへの参加を促す事業として実施していく								

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

PLAN  
計画

事務事業名	高齢者大学推進事業				
担当部名	生涯学習部	担当課名	社会教育課	課長名	黒岩 友治
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち		
	施策	1	生涯学習の充実		
予算事業名	高齢者大学推進事業				
事業の開始年度	平成	年度	事業の終了予定年度	平成	年度
対象	市内在住で60歳以上				
事業の目的	本格的な高齢化社会の到来に対応するため、高齢者自身が心豊かに生きがいのある生活を設計してもらうために幅広い学習の場を提供し、学ばれたことを地域社会に還元してもらえ高齢者の育成を目的としている。		事業の内容説明	「生活科学」、「美術・工芸」、「歴史・郷土」、「国際関係」、「文学」、「スポーツ・保健」、「政治・経済」、「福祉・ボランティア」の8つのコースがあり、定員は各コース30名。学習は同じコースを2ヶ年で、年8回(合計16回)受講してもらう。12回以上の出席者には卒業証書を、8回から11回の出席者には修了証書を授与する。	
市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	2	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)		
		説明	地方公共団体は、高齢者施策を策定し実施する責務を有するため、高齢者大学校は有効な施策であり、市の関与が必要となる。		
	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内
説明	高齢者の学習を通じて生きがいの機会を提供する事業であり、高齢者に対する有効な施策が不足する。				

DO  
実施

指標の推移	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
		実績	計画	実績	見込み	見込み
成果指標	受講生数 (人)	237	240	200	234	240
活動指標①	出席率 (%)	84	85	82	85	85
活動指標②	講座開催数	64	64	64	64	64
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出(直接事業費)(a)		10,733	14,596	14,035	10,798
	歳入(b)	受益者負担額	1,663	1,663	1,663	1,920
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)				
	(a) - (b) = 一般財源		9,070	12,933	12,372	8,878
	正職員	従事者数(単位:人)	0.25	0.25	0.25	0.25
		人件費(c)	1,625	1,451	1,451	1,451
	トータルコスト(a)+(c)		12,358	16,047	15,486	12,249
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )					
備考 (これまでの実績等)						

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	第8期生も定員240名に対して231名の申し込みがありニーズは高い。市民にある程度は認知されている。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	高齢者に幅広い学習の場を提供することにより、高齢者自身の生きがい対策の推進に繋がっている。						
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない		
		説明	事業にかかるコストとして、大きいものは人件費、講師謝金、教室の借上料であり、低減余地はあまりない。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		時代により異なる学習のニーズに合わせ、講座内容を検討しつつ講座を開催することを心がけることで、受講者の学習意欲と満足度を高め、受講者数増に繋げることが期待できる。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		C
説明		今後本格的な高齢化社会に対応し、生涯学習のきっかけづくりとなるように、事業内容等を検討しながら継続していく。							

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年6月3日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	社会教育委員・社会教育指導員・社会教育主事						
	担当部名	生涯学習部	担当課名	社会教育課	課長名	黒岩 友治		
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち				
		施策	1	生涯学習の充実				
	予算事業名	報酬給与費・社会教育推進事業						
	事業の開始年度	平成	年度	事業の終了予定年度	平成	年度		
	対象	社会教育委員・社会教育指導員・社会教育主事		事業の内容説明	社会教育委員会議、県・近畿・全国研究大会参加、先進地視察研修を開催し、日々教育委員会の諮問に応えるべく調査・研究を行い、教育委員会議への報告、並びに関係課に事業見直しの意見・助言を行っている。 行政は委員会議の開催運営の事務局として会議・研修の計画、実施、資料の収集、情報提供を行い市の生涯学習・社会教育の推進を行う。また、国・県・他市町村との連絡調整や庁内の連携を行う。			
	事業の目的	社会教育委員をはじめ社会教育指導員、社会教育主事等職員の資質の向上と社会教育の推進を目的とする。						
	市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)				
			説明	教育基本法、社会教育法、 檀原市社会教育委員に関する条例及び檀原市社会教育委員の会議運営要項、檀原市社会教育指導員に関する規則により社会教育行政を行っている。				
やめた場合の影響は		1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い		
		説明	市民の学習に対する需要及び学習の成果の評価に関する調査、地域の実情に即した学習方法の開発、市民の学習に関する指導者や助言者に対する研修など様々な社会教育に関する事業ができなくなる。					
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)	
			実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	会議・研修会出席率 参加人数/対象者	86.8	86.8	88	86.8	86.8	
	活動指標①	会議・研修会開催数 (回)	25	25	24	24	24	
	活動指標②							
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出 (直接事業費) (a)		928	1,332	937	1,176	
		歳入 (b)	受益者負担額					
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)					
		(a) - (b) = 一般財源		928	1,332	937	1,176	
正職員		従事者数 (単位:人)	0.55	0.55	0.55	0.55		
		人件費 (c)	3,575	3,192	3,192	3,192		
トータルコスト (a)+(c)		4,503	4,524	4,129	4,368			
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )							
備考 (これまでの実績等)								

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	社会教育への建議・意見具申・助言を受け、生涯学習や社会教育の推進のために事業に反映している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	住民の意向を社会教育行政に反映し、市の生涯学習・社会教育の推進に貢献している。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	社会教育委員会出席報酬費、会議運営費、2年に1回の県外研修費、全国・近畿の研究大会参加費用のみである。社会教育主事講習受講にかかる経費については、教育委員会に社会教育主事が必置であるため。従ってコスト低減は難しい。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		社会教育委員会議の内容の充実を図る。社会教育委員等は行政と市民が協働でまちづくりを行っていく上で、住民の要望、地域の課題などを行政へ反映する良き助言者であり、地域の教育力を向上させる大きな力となっている。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	A
説明			社会教育委員会議の会議内容等の充実を図っていく。							



事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年6月3日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

PLAN  
計画

事務事業名	社会教育推進事業						
担当部名	生涯学習部	担当課名	社会教育課	課長名	黒岩 友治		
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち				
	施策	1	生涯学習の充実				
予算事業名	社会教育推進事業						
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度
対象	幼児から高齢者						
事業の目的	生涯学習社会を目指し、幼児期から高齢者までが自発的意思に基づき、人生のあらゆる時期に、必要に応じ自己に適した手段および方法を自ら学び、学習ができるよう多様な学習機会を提供し、教育力を高める。			事業の内容説明	発達段階に応じた教室や講座を開催する。 一般成人対象・・・生涯学習セミナー、家庭教育学級 青少年対象・・・夏休みワクワク体験学習、かしはら探検隊 高齢者・・・生涯学習セミナー		
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)				
		説明	何かを学びたいと感じたときに、学習要求を学習行動に気軽に移してもらうために市の関与が必要となる。学習者みずから学ぶことを欲した要求課題(個人の要求)にのみ対応するのではなく、学習者が学ぶことを要請された必要課題(社会の要請)も提供する必要がある。				
	市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い
		説明	生涯学習を通じて、個々の教育力の向上や高齢者の生きがいづくりの機会を提供する事業である。従ってやめた場合、生きがいづくりの場を奪うこととなる。				

DO  
実施

指標の推移	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
		実績	計画	実績	見込み	見込み
成果指標	生涯学習セミナーの参加率 %	55.9	58.5	40	58.5	60.0
活動指標①	生涯学習セミナーの参加者 延べ数 人	3,647	6,300	3,523	6,300	6,400
活動指標②	生涯学習セミナーの応募者数 人	159	510	109	510	530
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出(直接事業費)(a)		4,745	5,254	5,239	5,424
	歳入(b)	受益者負担額				
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)				
	(a) - (b) = 一般財源		4,745	5,254	5,239	5,424
	正職員	従事者数(単位:人)	1.30	1.30	1.30	1.30
		人件費(c)	8,450	7,544	7,544	7,544
トータルコスト(a)+(c)		13,195	12,798	12,783	12,968	
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )					
備考 (これまでの実績等)						

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	3	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	参加率については、計画をやや下回り減少している。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	参加者延数が減少しているが、3,000人以上の数字があり貢献度はある。27年度も昨年度と同様に家庭教育学級の参加者減等が理由で全体の参加者が少なかった						
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない		
		説明	事業にかかる経費としては、講師に対する謝金、家庭教育学級運営委託料、会場借上料が主な経費であり、低減余地はあまりない。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		マーケティングによるニーズを把握し、情報提供をどれだけ丁寧にするか。目に留まるチラシやポスターを作成し、地区公民館などの生涯学習施設に掲示する。また参加申込しやすいうに、ハガキだけの応募ではなく、メール、ファックスによる応募も受付けることにより、参加者増が期待できる。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する		課内優先度	B
説明		一人でも多くの市民にいつでも、どこでも、だれでもが学びたいときに学ぶ機会を提供できるよう努める。要求課題(個人の要求)にのみ学習機会を提供するのではなく、必要課題(社会の要請)も重要である。また、今後受益者負担をどうするか、考える必要がある。							

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年6月3日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

PLAN  
計画

事務事業名	成人式運営事業				
担当部名	生涯学習部	担当課名	社会教育課	課長名	黒岩 友治
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち		
	施策	1	生涯学習の充実		
予算事業名	成人式運営事業				
事業の開始年度	平成	年度	事業の終了予定年度	平成	年度
対象	当該年に20歳になる新成人				
事業の目的	新成人を対象に責任ある大人としての自覚と行動を促し、新しい門出を祝福するため。		事業の内容説明	毎年1月の成人の日に、成人式祝賀式典を開催している。市内6中学校の代表者12名で実行委員会を立ち上げ、壇上で述べる「新成人誓いの言葉」を作成したり、式典の後のアトラクションを自主的に企画運営している。	
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業		
		2	2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)		
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明	式典は市主催で行っているが、アトラクション部分については実行委員が企画運営している。		
		1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内
		説明	次代を担う新成人の門出を祝う場、自立と責任を促す場が失われることとなる。		

DO  
実施

指標の推移	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
		実績	計画	実績	見込み	見込み
成果指標	出席者	1,010	1,010	860	1,010	1,010
活動指標①	対象者数	1,333	1,300	1,301	1,300	1,265
活動指標②	応援職員数	34	32	35	32	32
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出(直接事業費)(a)		2,670	2,618	2,580	2,718
	歳入(b)	受益者負担額				
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)				
	(a) - (b) = 一般財源		2,670	2,618	2,580	2,718
	正職員	従事者数(単位:人)	0.25	0.25	0.25	0.25
		人件費(c)	1,625	1,451	1,451	1,451
トータルコスト(a)+(c)		4,295	4,069	4,031	4,169	
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )					
備考 (これまでの実績等)						

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	出席率が80%前後で推移しているが、対象者数からみても成果は高い。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	大人としての自覚と行動を促すという事業目的からみても貢献度は高い。						
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない		
		説明	主な経費は会場借上料、舞台設営委託料などである。コスト低減は難しい。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		20歳を迎える新成人に対して、新たな門出を祝い、成人としての自覚をもってもらう機会として成人式を実施している。行政主体ではなく、できるだけ新成人が参画してもらえるように、記念行事については年々検討している。記念行事の企画を市内6中学校の代表者6名で実行委員会を立上げ、内容の一切を任せた。新成人自身が成人式に参画しているという意識付けが行われる。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		D
説明		今後も記念行事の部分を新成人代表で企画することで、新成人主体で催しができるようになり、参画している意識を持ってもらい、参加率が増えるように内容等を検討して継続していく。							

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年6月3日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

PLAN  
計画

事務事業名	生涯学習推進事業					
担当部名	生涯学習部	担当課名	社会教育課	課長名	黒岩 友治	
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち			
	施策	1	生涯学習の充実			
予算事業名	社会教育推進事業					
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成	
対象	市民					
事業の目的	市民一人ひとりが自発的かつ主体的に多様な学習を通し、学んだことを地域に還元し生きがいのある人生を過ごすこと。地域の教育力を向上させ地域の課題を解決するための力を養い、習得した知識・経験を備えた地域のコーディネーターとして学校と地域を繋ぐ役割を担い、地域社会全体で教育支援活動を実施し、地域コミュニティを活性化することを目的とする。		事業の内容説明	市民が生涯のいつでも、どこでも、自ら学習できる環境や多様なニーズに応えた学習機会の提供を行う。また、学習によって習得した知識・経験を活かし、地域のコーディネーターとして学校と地域を連携させ、教育支援活動を行う。		
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業			
		2	2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)			
	説明	国民の学習に対する多様な需要を踏まえ、適切に対応するために必要な学習の機会の提供及びその奨励を行うことにより、生涯学習の振興に寄与すること及び、地域を活かした豊かな学びの創出により、地域の将来を担う子どもたちを育成することは市が主体的に関わるべき事業である。				
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い
		説明	法律にうたわれた生涯学習の機会の提供及びその奨励など生涯教育行政が滞り、市民の生涯にわたっての学習の機会や、まち全体で地域の将来を担う子どもたちを育成し、地域コミュニティの活性化を図る機会を失う。			

DO  
実施

指標の推移	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
		実績	計画	実績	見込み	見込み
成果指標	講座・事業参加率 参加人数/募集人数	48	80	55	80	80
活動指標①	事業開催数(学校地域パートナーシップ)	22	22	22	22	22
活動指標②	延参加人数(地域学級+コーディネータ)	903	2,500	1,255	2,500	2,500
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出(直接事業費)(a)		6,620	6,820	6,420	6,620
	歳入(b)	受益者負担額				
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)	3,813	3,813	3,535	3,535
	(a) - (b) = 一般財源		2,807	3,007	2,885	3,085
	正職員	従事者数(単位:人)	0.45	0.45	0.45	0.45
		人件費(c)	2,925	2,611	2,611	2,611
	トータルコスト(a)+(c)		9,545	9,431	9,031	9,231
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )					
備考 (これまでの実績等)						

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	地域の理解が高まるとともに学習意欲が向上した表れか、前年度と比較して参加人数は増加に転じた。また、学習により習得した知識・経験を活かす場として学校・地域パートナーシップ事業がその受け皿として機能している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	生涯学習の充実を図る上で、この事業の占める割合は非常に大きいと考えられる。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	コスト面ではこれ以上の改善は見込めない。また一人当たりのコストを考えると、参加者増を期待するも少子化により難しい状況である。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		地域により積極的に働きかけ、全11地区で地域学級事業を実施することにより、参加者の増加を図り今以上の地域活性化に繋げる効果が期待できる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	B
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する						
		説明	庁内での連携も図りつつ、事業内容の充実、改善を図りながら進める。							



事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年6月3日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

PLAN  
計画

事務事業名	地域生涯学習推進委員事業						
担当部名	生涯学習部	担当課名	社会教育課	課長名	黒岩 友治		
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち				
	施策	1	生涯学習の充実				
予算事業名	社会教育推進事業費						
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度
対象	地域生涯学習推進委員			事業の内容説明	地域生涯学習推進委員を対象に生涯学習に関する講演会、交流会、先進地視察研修を開催し、委員の活動状況や地域の生涯学習への取り組みの情報交換や意見交換を行う。		
事業の目的	市民が生涯学習活動を進めるにあたり、その普及及び推進を図り地域の教育力向上を目指す。						
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業				
		2	2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)				
	説明	生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律 檀原市地域生涯学習推進委員の設置に関する規程					
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い	
		説明	地域における生涯学習の推進に影響し、地域教育力が減退する。				

DO  
実施

指標の推移	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
		実績	計画	実績	見込み	見込み
成果指標	会議・研修会出席率 参加人数/対象者	49	80	54	80	80
活動指標①	会議・研修会開催数 (回)	3	2	2	2	2
活動指標②						
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出(直接事業費)(a)		660	660	600	660
	歳入(b)	受益者負担額				
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)				
	(a) - (b) = 一般財源		660	660	600	660
	正職員	従事者数(単位:人)	0.40	0.40	0.40	0.40
		人件費(c)	2,600	2,321	2,321	2,321
	トータルコスト(a)+(c)		3,260	2,981	2,921	2,981
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )					
備考 (これまでの実績等)						

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	地区公民館を中心に、生涯学習事業が活発に行われ、地域住民への生涯学習情報の収集・発信において自治会との連携を密にしながら地域へ浸透している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	地域生涯学習推進委員会が中心となり、地域の実情に沿った事業の実施や学習機会の提供を行っており、地域の生涯学習コーディネーターの役割を担っている。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	地域での活動はほとんど無料のボランティア活動で行われており、必要経費は報償費がほとんどであり、現時点でコスト低減は見込めない。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		地域の核となる地域学習推進委員の継続的な活動が協働のまちづくりにつながる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B	
説明			地域の核となる地域学習推進委員の継続的な活動が必要である。							

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年 6月 3日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	公民館管理運営事業						
	担当部名	生涯学習部	担当課名	中央公民館	課長名	加藤智治		
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち				
		施策	1	生涯学習の充実				
	予算事業名	市立公民館管理運営費						
	事業の開始年度	平成	年度	事業の終了予定年度	平成	年度		
	対象	公民館本館・分館利用者		事業の内容説明	公民館本館と分館には、講堂、会議室、研修室、和室、料理調理室等、住民のニーズに応える部屋があり、利用調整を図っている。周知は、広報「かしはら」やインターネット(e古都なら)で行っている。また、中央公民館・分館の適正な維持管理を行う。			
	事業の目的	住民の生涯学習や日常生活に最も身近な交流の場として、生涯学習グループ・サークル等の活動を支援し、住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興社会福祉の増進に寄与し、快適な学習環境を提供する。						
	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業				
			2	市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)				
説明		生涯学習の機会や環境を充実させ、学習グループやサークルの活動を支援し、知識や教養を高めあう場が必要であるため。						
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い		
		説明	生涯学習の機会や場が失われるため、学習グループやサークルの活動ができなくなる。					
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
				実績	計画	実績	見込み	見込み
	成果指標	館利用率(%)		29.5	29.5	33.3	29.5	30.0
	活動指標①	館利用者数		94,526	95,000	102,058	95,000	95,000
	活動指標②	利用件数		9,208	9,000	9,857	9,000	9,000
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出(直接事業費)(a)		43,610	44,844	44,575	44,565	
		歳入(b)	受益者負担額	7,252	6,916	7,512	7,019	
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)					
		(a) - (b) = 一般財源		36,358	37,928	37,063	37,546	
正職員		従事者数(単位:人)	0.60	0.60	0.70	0.70		
		人件費(c)	3,900	3,482	4,062	4,062		
トータルコスト(a)+(c)		47,510	48,326	48,637	48,627			
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )							
備考 (これまでの実績等)								

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	利用件数は、前年度に比べ増加している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	安定した生涯学習施設を運営することで、定期的かつ継続的に個人や団体の学習活動の場が確保でき、豊かに生きがいのある生活を送ることができる生涯学習社会の実現・達成に高く貢献している。							
評価	効率性評価		3	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	利用者に節電を促したり、グリーンカーテンやよしずを設置したりして、経費削減に努めてはいるが、設備を含めた公民館の老朽化による修理や古い備品の買い替えに支出がかさむことが予想される。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		公民館利用団体へのスケジュール予約の方法をより良く改善し、利用者に公平性の確保と負担の軽減および利便性の向上を目指すとともに、適正な建物等の維持管理を実施することで、快適な学習環境を提供することが期待できる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		A	
説明			4 廃止又は休止する 5 完了する 子どもからお年寄りまで、幅広い年齢層の生涯学習の場として、十分に活用されるよう推進していく。							

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年 6月 3日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	生涯学習の機会提供事業								
	担当部名	生涯学習部	担当課名	中央公民館	課長名	加藤智治				
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち						
		施策	1	生涯学習の充実						
	予算事業名	市立公民館管理運営費								
	事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度		
	対象	市民(教室参加者)		事業の内 容説明	市民の多彩な趣味・教養・学習ニーズに応えるべく、教養講座や生活文化講座を28教室開催した。公民館主催講座終了後もサークル結成や自主活動グループに入会して、趣味や学習を継続される方もおられ、生涯学習の機会を提供するきっかけをつくっている。					
	事業の 目的	各世代に対応した生涯学習教室を開催することにより、市民が充実した生きがいのある人生を過ごすためのきっかけづくりの場を提供する。								
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	2	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業						
				2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)						
説明		夢や喜び・目標などの生きがいを持って生活するために、人との交流や教養・趣味の学習の機会が必要であるため。								
市の関与 の必要性を 評価してく ださい	やめた 場合の 影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
			説明 市の主催教室終了後、自主グループへ入会するなど継続的に学習を行い、自主グループの人数が増加していることから、生涯学習へのきっかけ作りの機会や継続性が失われる。							
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	教室延べ募集人数			6,251	6,660	6,173	6,660	6,980	
	活動指標①	教室数			32	30	28	30	32	
	活動指標②									
	コストの 推移  (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)			3,793	3,949	3,995	3,933		
		歳入 (b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)							
		(a) - (b) = 一般財源			3,793	3,949	3,995	3,933		
正職員		従事者数(単位:人)			0.70	0.70	0.70	0.70		
		人件費(c)			4,550	4,062	4,062	4,062		
トータルコスト(a)+(c)			8,343	8,011	8,057	7,995				
単位当 りコスト	計算式等 ( )/( )									
備考 (これまでの 実績等)										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	教室の内容によって人数の変動はあるものの、何かを学習したいという市民の要望は常に多い。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	少子高齢化社会が進むなか、誰もが健康で生き生きとした生活が送れるように、各世代が生きがいを持って学習を続けられる生涯学習社会の構築に寄与している。						
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない		
		説明	教室の材料費は参加者負担であるが、各種教室は充実した内容が多いため、見直しによる低減は難しい。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		こどもからお年寄りまで中央公民館の主催する教室に参加し、その後、自主グループの結成やサークルへの参加につながるような生涯学習の場として、公民館が十分活用されるよう図っていく。応募者数の多い教室は継続し、また、市民の多彩な趣味・学習ニーズに応えることが、生涯学習のきっかけづくりとして期待される。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B
説明		事業を現状維持しながら、各種教室を充実した内容に検討していく。							



事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年 6月 3日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	地区公民館維持・管理運営事業						
	担当部名	生涯学習部	担当課名	中央公民館	課長名	加藤智治		
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち				
		施策	1	生涯学習の充実				
	予算事業名	地区公民館等管理運営費						
	事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度
	対象	地区公民館利用者		事業の 内容 説明	現在11館ある地区公民館を平成18年4月から指定管理者制度を導入し、地区公民館の活性化と地域住民のニーズに応えられるよう、地元の11地区の自治委員会に管理運営を委託している。また、市ホームページに地区公民館の概要を掲載している。			
	事業の 目的	市内11地区において、住民が文化活動やレクリエーション活動等の事業を活発に行う場を提供し、地域住民相互の交流活動を推進し、市民の教養の向上及び社会福祉の増進に貢献する。						
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	2	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業				
				2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)				
説明		社会教育法において、公民館は住民の教養の向上のため市町村が設置することとなっている。そして、地域においても生涯学習の機会や環境の充実を図ることにより、学習グループやサークル等の活動を支援し、知識や教養を高めあう生涯学習の場が必要であるため。						
市の関与の 必要性を 評価してく ださい	やめた 場合の 影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い		
			説明	地区において、公民館の役割と目的を果たせなくなる。				
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)	
			実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	利用者数	124,945	135,500	120,930	135,500	136,000	
	活動指標①	利用団体数	3,146	3,400	3,111	3,400	3,450	
	活動指標②							
	コストの 推移  (単位: 千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出(直接事業費)(a)		57,919	189,328	180,911	58,601	
		歳入 (b)	受益者負担額	163	172	163	172	
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)		1,192	1,033		
		(a) - (b) = 一般財源		57,756	187,964	179,715	58,429	
正職員		従事者数(単位:人)	0.70	0.70	0.80	0.80		
		人件費(c)	4,550	4,062	4,642	4,642		
トータルコスト(a)+(c)		62,469	193,390	185,553	63,243			
単位当 りコスト	計算式等 ( )/( )							
備考 (これまでの 実績等)								

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	地区公民館は地域に根付いた施設であり、自治委員会により柔軟かつ円滑な管理運営がなされている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	地区自治会・地元団体・サークル等に対して、定期的に活動する場を還元していることで、多くの地区住民の生涯学習の場としての役割を果たしている。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	地区自治委員会に管理運営を委ねており、自治委員会の意思を最大限に尊重することを前提としながら、自治委員会の意識向上を目指す中ではコストの逡減が可能であると思われる。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		建物や設備の老朽化が著しく進んでいるため、利用者が安全で安心して活動できる場を提供できるよう施設機能の改善を進めていく。そして、地区公民館が活性化することで地区住民のふれあいが広がり、連帯感がより強くなることが期待できる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B
説明		地区公民館が、地元地域の生涯学習の拠点として、また、地域に根ざしたふれあいの場として活性化できる役割を担う事業として継続する。								

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年 6月 3日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

PLAN  
計画

事務事業名	美術展覧会開催事業				
担当部名	生涯学習部	担当課名	中央公民館	課長名	加藤智治
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち		
	施策	1	生涯学習の充実		
予算事業名	市立公民館管理運営費				
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成
対象	市民 出品資格は市内在住・在勤・在学者(高校生以上の年齢の方)		事業の内容説明	日本画、洋画、書道、写真、彫塑工芸の5部門で募集。6日間の会期中、万葉ホールの3階展示ギャラリーに展示している。優秀作品については、各部門ごとに市展賞をはじめ8つの賞を設け表彰式を行う。	
事業の目的	優れた美術作品を展示し、市民の芸術文化への関心を深めるとともに芸術活動のより一層の振興を図る。				
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業		
		2	2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)		
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明	市民の生涯学習として、市民レベルでの文化・芸術と振興を高揚させる場が必要である。		
		2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内
		説明	生涯学習として取り組んでいる市民に対し、成果発表の場や芸術・文化へ触れる機会が失われ、芸術・文化への関心が薄れる。		

DO  
実施

指標の推移	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
		実績	計画	実績	見込み	見込み
成果指標	出品作品数	249	280	268	280	290
活動指標①	来場者数	2,014	2,150	2,177	2,150	2,300
活動指標②						
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出(直接事業費)(a)		2,353	2,368	2,503	2,365
	歳入(b)	受益者負担額				
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)				
	(a) - (b) = 一般財源		2,353	2,368	2,503	2,365
	正職員	従事者数(単位:人)	0.40	0.40	0.40	0.40
		人件費(c)	2,600	2,321	2,321	2,321
	トータルコスト(a)+(c)		4,953	4,689	4,824	4,686
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )					
備考 (これまでの実績等)						

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	出品点数は過去の実績と比べても同様であるが、市展出品の製作を公民館で行う自主グループもあることから、意欲的な活動の目標となっている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	学習意欲の高揚や生きがい・やりがいにつながっており、市展の開催は有効である。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	会場の使用料、会場の設営、審査員の謝礼などが主なコストであるが、経費削減の余地はある。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		文化・芸術活動の振興の面から、文化振興課と共催しPR活動を活発に行うことで、来場者や出品者を増加させることにより、芸術分野における生涯学習に関わり携わる市民の増加につながる。また、公民館を利用している自主グループの成果発表の場を開催することが本来の公民館事業と考えていることから、出品者のモチベーションの向上を促し、来場者にはより深い芸術への関心を高める効果が期待できる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度	C	
説明		今後も継続的に文化・芸術の情報を発信し、市民の文化・芸術活動を推進することから、文化振興課へ事業実施の手法を引き継ぎ、経費削減も含めた改善をしていく。								

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年6月1日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( 内部管理・維持管理 ) 事業

PLAN 計画	事務事業名	昆虫館管理事業						
	担当部名	生涯学習部	担当課名	昆虫館	課長名	木村 史明		
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	4	市民の自立と個性を活かすまち				
		施策	1	生涯学習の充実				
	予算事業名	昆虫館管理事業						
	事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	
対象	昆虫館			事業の内容 説明	効率的で安定した運営を行うため、受付及び清掃業務は一体として非常勤職員にて行い、各種のメンテナンスは専門を有する業者に委託することにより適切かつ安全に実施する。入館者増の取り組みとして、昆虫や野生生物等に関する特別展、企画展等のイベントなどを積極的に市のホームページや広報誌、昆虫館機関紙等に情報を発信する。			
事業の 目的	子どもだけではなく大人も自然や命の大切さを学び、理解できるような施設の環境づくりを行い、効率的に安定した運営、宣伝をすることで、昆虫館への誘致や入館者の満足度を高める。							
妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業						
		2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)						
市の関与 の必要性を 評価してく ださい	やめた 場合の 影響は	説明						
		1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い			
DO 実施	指標の 推移	名称及び単位等		26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
				実績	計画	実績	見込み	見込み
	成果指標	入館者数(人)		69,832	73,000	68,676	74,000	75,000
	活動指標①	案内啓発回数(回)		38	24	34	24	24
	活動指標②	ミュージアムショップ運営業務(円)		2,121,100	2,000,000	1,948,290	2,100,000	2,110,000
	コストの 推移  (単位: 千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出(直接事業費)(a)		28,072	57,801	48,079	30,767	
		歳入 (b)	受益者負担額	22,558	19,005	20,208	20,125	
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)					
		(a) - (b) = 一般財源		5,514	38,796	27,871	10,642	
正職員		従事者数(単位:人)	2.25	2.25	2.25	2.25		
		人件費(c)	14,625	13,057	13,057	13,057		
トータルコスト(a)+(c)		42,697	70,858	61,136	43,824			
単位当 りコスト	計算式等 (トータルコスト)÷(入館者数)		0.56	0.97	0.75	0.59		
備考 (これまでの 実績等)								

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	当館の機械類の改修等が計画的に進み、効率且つ安全に自然環境や生物多様性、命の大切さについて学習できる場の提供や常設展示や特別展、企画展の展示方法の工夫、四季の昆虫観察会や講座等のイベント内容が充実しており、学校の校外学習などの活動にもよく利用されてきている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	自然環境についての関心が高く、生物多様性や昆虫・生き物等についての昆虫館が情報の発信・提供を行うと同時に、子どもから大人まで自然環境などについて学べる学習施設(博物館)として徐々にではあるが生涯学習の場として充実してきている。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	無料の情報誌の掲載や新聞、マスコミ等に情報提供し、入館者増大を図る。本館自体の機械関係等が老朽化等で維持管理費が年々増加している。更に新館部分の維持管理等にも費用がかかり維持経費は増加傾向にある。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		マスコミや無料の情報誌への掲載、昆虫や生き物、野生生物等に関する特別展や企画展等のイベントなどを積極的に市のホームページや広報誌、当館の機関紙等に情報発信する。また、クラフトづくりなどの参加・体験型の小人数制のミニイベント的なことを実施し、入館者増大を図る。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	
説明		マスコミや無料の情報誌への掲載を引き続いて行いながら、シニア世代や修学旅行生等の割引区分を考慮しながら、入館者増を図る。また、生涯学習の場としての利用を推進していく。今後は、本館自体の機械関係等の維持管理費や新館部分の維持管理費が増加傾向にある。								